

龍政クラブ

〒313-0016
常陸太田市
金井町 3690
常陸太田市役所 4階

ryusei.hitachiota@gmail.com

FAX / (0294)33-6634

益子慎哉
高木 将
深谷秀峰
森山一政

会派代表の益子慎哉です。

「龍政クラブ」会報の第三号発行にあたり、会派を代表してご挨拶申し上げます。

令和七年度第一回定例会議は、本年三月四日から二十四日の間、令和七年度一般会計・各特別会計等の予算案八件、その他の議案五〇件で、合計五八件を審議いたしました。

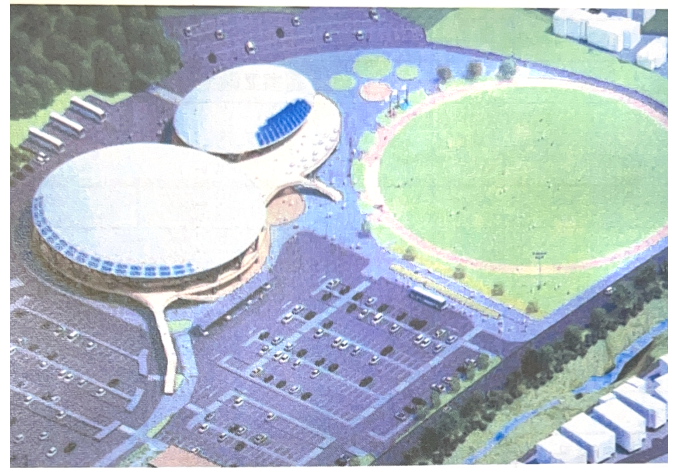
私たちは、会報第二号でもお伝えいたしましたように、財政状況が豊かとは言えない本市の議員として、年々進む少子化傾向と将来の市民税減少予想の下で、無駄を省き効率的な財政運営をもとめて行動してまいりました。

会報第三号は、昨年四月発足した我々「龍政クラブ」が市民目線で行動した記録などをまとめましたので、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

「新体育館建設計画」を 市民目線で考える

【議案第二八号 令和七年度常陸太田市一般会計予算】案には新総合体育館建設にかかる予算が含まれており、これまで会派として計画の変更や規模の縮小を主張してきたことについての対応や改善点が不十分であることから、反対の立場で討論を実施しました。

また、【議案第三六号 常陸太田市新総合体育館新築工事請負契約について】についても、①契約条文内容の観点から、②契約条文に関連して建設期間中に可能とされる建設費の補正増への対応の観点から、③耐用期間中に予想される高額な年間維持管理費総額にかかる後年度負担の観点から、反対の立場で討論を実施しました。



《反対討論の要旨》

① 令和三年度末に示された新総合体育館建設計画は、外構工事を含む全事業の当初予算総額は四六億円でしたが、本年三月十四日に実施した入札上額は、体育館本体のみにも膨らんでおり、その他の外構工事を含む最終的な総工事費は、今後更に高騰すると思われる資材費・人件費の増などにより、工事の完了までの総事業費は二倍を超えることも想定されること。

② 設計コンサルタント会社との契約が完了した令和六年三月末から約四ヶ月後の八月一日に実施された入札までの間に、資材費が一・一倍、人件費は一・五倍になっていたことに気付かず入札を実施したために、前代未聞の応札ゼロとなっていました。

その原因調査の結果、実勢価格と約二〇億円近い差が見られたことから、再度、詳細調査を実施した結果、それでもなお実勢価格とは十五億円もの大きな乖離を確認。

その為、設計コンサルタント会社の調査不備などによる企業責任では？との質問への市長答弁は、「外的要因による高騰であり設計コンサルタント会社に責任は無い」との答弁でした。が、見方を変えれば、実勢価格の約七五%の見積額で入札に付したわけですから、市場動向調査に不備があったと言わざるを得ず、市と企業の双方に責任があると考えます。

また、昨年十月末の調査と詳細調査の結果を確認した時点で、体育館建設やサブリーナ取り止めなどの計画見直し議論を進めるべきであったと考えます。

③建設計画の中止や縮小を主張する理由について

新総合体育館建設計画の目玉としたプロバスケットボール公式戦誘致は、協会運営規程を満たせない為、不可能であることを早期に判明していたこと。

又、今回の計画で陸上競技場が取り潰されましたが、その対策として示されたのは、「市内小・中学校の児童・生徒に関わる規模の大きな大会は笠松運動公園で実施する」という答弁。競技場利用は大会だけでは無いので、驚くばかりです。

④建設工事請負契約について

建設工事請負契約に係る入札額七〇億五九〇万円で、応札上限額に対し落札率九九・九九%でした。

前回の入札が応札ゼロだったことから、詳細調査と内容

検討見直しにより、屋根構造体変更・リボンビジョン設置中止・観客席数の大幅減・照明数量の減などにより建設費の減額に努めたものの、それでもなお前回実施した入札上限額よりも七・五億円の増となってしまうようです。

⑤契約書に記されている内容に関する課題

今回の建設期間は三ヶ年に渡りますので、この間の資材費や人件費の高騰が懸念されます。

今回の契約金額約七〇億円はあくまで現時点における額であり、期間中の市場動向によつては、補正増を可能とする（出来る）と明記されているのです。

先に記しましたが、昨年四月からの僅か四ヶ月間でも資材費が一・二倍、人件費は一・五倍になっていったことから、今後三ヶ年の諸物価高騰に伴う建設費増加額などについて皆目見当が付きません。

何より、すでに当初の額より大幅な増となっている現状よりも更なる増額について、市民

の皆様に理解を求めることには無理があると考えます。

⑥維持管理費にかかる課題点

合併前からの建物系及びインフラ系等の公共施設の維持管理費は、令和三八年までの四〇年間に約一千億円と試算。

そのため当市は【常陸太田市公共施設等総合管理計画】を策定し、五百億円まで半減しようとしていますので、新総合体育館建設にかかる維持管理費について考えてみました。

類似規模の施設から想定して計画当初に示された年間維持管理費は一・五〜二億円でしたので、建設費が増増に近い現状から推察すると、今後の年間維持管理費も倍増の三〜四億円と考えました。

低く見積もって年間三億円としても、令和三八年までに約九〇億円近くの維持費がかかることとなります。

大きな施設を作れば、年間の維持管理費が高額となることは必然です。

新総合体育館建設の目玉としたプロスポーツ、特にプロバスケットボール公式試合誘致に必

要としたサブアリーナ建設でしたが、その誘致が実質不可能なのですから、サブアリーナ建設を中止することで年間維持管理費減額も可能と訴えましたが、体育館建設工事請負契約にかかると第三六号議案は採決の結果、賛成八票・反対六票となり、残念ながら現計画で推進することになってしまいました。

私たち龍政クラブは、体育館建設そのものに反対しているわけではありません。

身の丈にあった、ごく一般的な形状、かつ必要十分な機能を有し、小さなお子さんから高齢者の皆様までが、楽しくスポーツに・体力作りに取り組める、利用しやすい料金設定の、そのような体育館ができればと思っています。

龍政クラブの目指すもの

【市民の声に耳を傾け

将来に大きな負担を残さない

身の丈にあった財政計画】

皆様のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

体育館建設費の財源は、常陸太田市の一般財源のほか、有利な国県補助金や合併特例債などで構成されています。しかし、これからは続く可能性の高い人口減少は、即ち、税収減につながるものでもありますので、楽観できないと考えています。